

# 点差

こうさてん

2月22日付の市民タイムス安曇野版に「有害鳥獣駆除の対策強化―市、捕獲の報奨金上乘せ」の記事があった。対象はカワウ、ニホンジカだ。内容には賛同できるが、かつて中学校の英語教材に出てきたアメリカ合衆国の話を思い出した。

アメリカのある地域で、農家が飼っている鶏がワシに襲われて持ち去られた。そのこ

とが役所に訴えられる  
と「銃など

でワシを捕獲して持参した者には報奨金を支払う」という通達が出た。

喜んだ住民は、こぞつて家にある銃を使ってワシを撃ち落とし、お金に換えた。その結果、ワシの数が減り、ニワトリの被害も減り、農民は大喜びした。

これで一件落着いたかに見えたが、後日その地域一帯が大変なこと

になった。野ネズミが大発生し、せっかく栽培した穀物が食い荒らされ、家の中まで入ってきた。住民はワシが野ネズミも食べていたことが分かり、駆除をやめたという。

この話のタイトルは「どうやって自然と人間がバランスを取ればいいか」で、生徒皆が英語と日本語で話し合った。結論として、1種類の動物

## 動物との共存

を保護したり駆除したりするだけでは、自然界のバランスは崩れてしまうのではないか、ということになった。

全国的に、猿、熊、イタチ、ハクビシ、アライグマなどの動物と人間との共存をどうするかという問題が山積している。解決は簡単ではないだろう。地域が一丸となって知恵を出し合う必要があるように思う。